

札幌リハビリテーション専門学校

学校関係者評価報告書

(令和6年)

学校法人西野学園

札幌リハビリテーション専門学校

令和6年10月
学校法人西野学園
札幌リハビリテーション専門学校
校長 堀野 智宏

学校関係者評価について（報告）

「職業実践専門課程」の認定を受けている本校では、平成24年度から教職員による「自己評価」を、さらに平成26年度から「自己評価」結果を踏まえた「学校関係者評価」を実施しています。

「職業実践専門課程」としての教育の充実を図るため「学校関係者評価」の実施にあたっては、関係機関や本校の卒業生の方々から構成される学校関係者評価委員会を編成、年3回の委員会を開催し、本校の「自己評価」結果をもとに、外部の観点から貴重なご意見やご要望をいただいております。

本校としては、学校関係者評価委員会で頂いたご意見やご要望をもとに課題を把握し、速やかに改善策を検討するとともに、広く社会のニーズに適した学校運営や教育課程の編成に、組織的かつ継続的に取り組んでおります。また、その自己評価と外部評価について本学園のホームページ上に公開しております。

今後ともより良い学校運営、教育活動を目指し、学校関係者の方々との連携・協力をはかりつつ、教職員一同尽力してまいりますので、今後とも本校へのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上

記

「令和5年度学校関係者評価」につきまして、次のとおり報告いたします。

1 学校関係者評価委員 名簿

氏名	所属
杉原 俊一	医療法人秀友会 札幌秀友会病院 公益社団法人 北海道理学療法士会 常任理事
吉岡 英章	医療法人社団憲仁会 牧田病院 公益社団法人 北海道作業療法士会 副会長
佐藤 喜亮	社会医療法人社団三草会 クラーク病院
高松 尚徳	医療法人清仁会 北海道内科リウマチ科病院

2 学校関係者評価委員会開催日時

第1回 令和6年6月20日（木） 15:00～17:00

第2回 令和6年9月19日（木） 15:00～17:00

（第3回は令和7年2月20日（木）を予定）

3 今年度の学校関係者評価実施の流れ

令和6年 4月 令和5年度の教育活動等に関する「自己評価」を実施

“ 6月 令和6年度第1回学校関係者評価委員会を開催し、「自己評価」に基づく「学校関係者評価」の内容を提示

“ 9月 令和6年度第2回学校関係者評価委員会を開催し、「学校関係者評価」の内容を確認

“ 10月 「令和5年度学校関係者評価」をホームページに公開

令和5年度 自己点検評価項目		令和3年度 自己評価 (平均)	令和4年度 自己評価 (平均)	令和5年度 自己評価 (平均)	学校関係者評価委員会による評価
I 教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材像は定められているか。	4.3	3.8	4.6	多様なニーズを持つ対象者が増えると予想されており、「N'sシート委員会」による「教育手法の向上」や「卒業生調査」等は、教育の質の向上や人材育成に成果を上げていると考えられる。また、「学科のキャッチフレーズ」や「スクールポリシー」により理念や目標、育成人材像が設定され、SNSを通じた周知は評価出来る。
	2 社会のニーズ等を踏まえた学園の将来構想を抱いているか。	4.0	3.7	4.2	
	3 理念・目標・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。	4.0	3.5	4.1	
II 学校運営	4 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4.3	3.6	3.9	学園組織を活用したクラス運営ハンドブックの編集委員会などの活動や、教員の配置転換も含め、組織運営は円滑に進行していると考えられる。Rocket.Chatによる情報システムが令和5年度から本格的に導入され、ICTの活用による情報共有により学内連携と協働体制の強化を認めており、学内のDX推進による業務効率の強化も期待したい。情報公開については、自己評価がHPに掲載されており、学校関係者委員会の教職員にフィードバックや意識改革や問題点の再確認に活用されており、引き続きこの取り組みを続けていただきたい。
	5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。	3.9	3.4	3.3	
	6 情報システム等による業務の効率化が図られているか。	3.4	2.9	3.6	
	7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。	3.9	3.0	3.9	
III 教育活動	8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4.4	3.6	4.0	国家試験合格率は5年連続で90%以上を維持しているものの、昨年度のPT学科はOT学科に比べて合格率が低く、特に既卒者の合格率が全体的に低いことから、既卒者に対する強化も必要と考えられる。令和5年度に新たに入職した教職員については、継続した自己研鑽が求められるが、学生の面談を担当だけでなく副担任も含め複数の教職員で行っており、学生の情報を効果的に学校全体で共有する体制は評価出来る。対面とオンラインのハイブリッド形式で行った教職員研修の工夫は認めるが、実習受け入れ施設や職能団体との連携を強化し、在学中から職能団体との関わりを持つことで、教員の能力向上や卒業後の活動につなげることも期待したい。
	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4.1	3.6	3.7	
	10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。	3.9	3.5	3.6	
	11 授業規律を確保し、統一した指導体制のもとで教育活動が行われているか。	4.1	3.4	4.4	
	12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の編成や点検等が行われているか。	4.1	3.4	4.4	
	13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか。	4.1	3.5	4.2	
	14 授業評価の実施等、評価体制があるか。	4.1	3.5	3.8	
IV 学修成果	15 職員の能力開発のための研修が行われているか。	3.9	3.4	3.4	令和5年度の退学率はPT学科で昨年度より上昇し、OT学科は前年度並みであるが、学生サポートセンターの協力を受けながら、医療・福祉分野に限らず様々な分野への就職斡旋を継続し、退学率の低下に努める必要がある。進路変更や学力不足などの理由で退学する学生がいるため、学生の現状を深く理解し、メンタル面のサポートの強化を引き続き望む。卒業生の活動についての調査も本格的に実施されており、今後の分析を期待する。
	17 就職率の向上は図られているか。	4.1	3.5	4.6	
	18 退学率の低減は図られているか。	3.4	2.8	3.6	
V 学生支援	19 卒業生・在校生の社会的な活動を把握し、評価しているか。	3.7	3.1	3.7	学生サポートセンターは充実しており、就職サポートも含む学生支援体制や経済的支援体制の整備が、休退学者の低減や基礎学力の向上など、多方面で学生の質の向上に繋がると考えられる。また、メンタル不調の学生に対してはカウンセラーの利用が必要であり、教員と学生の信頼関係を構築し、相談しやすい環境を整えることが重要と考える。西校舎は支部が増え、卒業生への研究費支援を行うなど積極的に活動しており、引き続きその今後の活動を期待する。
	20 学生相談に関する体制は活用されているか。	3.8	3.2	3.7	
	21 学生の経済的支援体制は整備されているか。	3.9	3.6	4.5	
	22 保護者と適切に連携しているか。	4.3	3.7	4.2	
	23 卒業生への支援体制は整備されているか。	4.1	3.2	3.9	
	24 ロングホームルームなどを効果的に活用し、職業観・勤労観の育成に努めているか。	4.4	3.4	4.1	
VI 教育環境	25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.9	3.3	3.5	PCの入れ替えや施設の老朽化に伴う設備点検や環境整備、備品の購入は急務であり、適切な対応が求められている。図書室の利用については、定期的な書籍購入だけでなく、BYOD世代に対応できる電子書籍や論文検索サイトの利用環境を整備し、利用の活性化を促進することが重要と考える。また、防災訓練は、学生防災委員会の活動を通じて学生の防災意識の向上に繋がっていると考えられ、取り組みの継続を期待する。
	26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか。	3.8	3.3	4.5	
	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	3.5	3.0	4.1	
VII 学生募集	28 図書室利用の活性化が図られているか。	3.4	2.7	3.4	少子化が進む中で学生募集は厳しさを増しており、オープンキャンパスやパンフレット作成などの情報発信活動は、入学生増加の取り組みとして効果的に機能していると考えられる。また、出前授業を通じて高校生に学校やリハビリの魅力を伝える活動も今後必要と考える。リハ職を選んでもらうためには給与の引き上げが不可欠であり、業界全体での取り組みが必要であろう。
	29 防災に対する体制は整備されているか。	3.6	3.3	3.9	
VIII 財務	30 学生の募集は適正に行われているか。	4.4	3.4	3.3	学校の財政基盤は学生の定員確保や入学者数の増加によって支えられるが、競合校の増加と少子化の厳しい状況の中でもSNSを活用したオープンキャンパスの周知は認知度向上に有効であり、今後も継続が望まれる。大学との違いを保護者にも伝えるように工夫し、セラビストを目指す学生が専門学校に興味を持つようなHP作りやSNS発信方法の模索が必要と考える。
	31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4.1	3.4	4.3	
IX 法令等の遵守	32 中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。	3.4	2.6	3.3	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。
	33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3.8	2.8	3.4	
X 社会貢献等	34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.1	3.5	4.1	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。
	35 個人情報の保護のための対策がとられているか。	4.2	3.4	3.7	
X 社会貢献等	36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3.8	3.3	4.4	コロナ禍によりボランティア活動は減少傾向であるが、地域との連携を通じて社会貢献や地域貢献のニーズを探り、可能な範囲でボランティア活動の支援を継続してほしい。
	37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	3.9	3.6	4.4	